

「裏磐梯紀行(10)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

桧原湖畔探勝路のハイライトは、コース中間部にある「吊り橋」だ。私は吊り橋の適度な不安定感が好きで、わくわくしてしまうほうだが、高所恐怖症の人や、「チャック・ノリスの 地獄のヒーロー2」の見過ぎか、実際に吊り橋から転落したことのある人には、渡るのは厳しいだろう。



人道専用の吊り橋を渡るのは、2年前に行った奥多摩の溪谷以来で、久しぶりだ。欄干に相当する部分もワイヤーなので、なかなかスリルがある。最初は恐る恐るだったが、幸い「20人の団体」も「チャック・ノリス」もいなかったもので、私は面白がって、3往復もしてしまった。



吊り橋からの眺めもすばらしい。樹木のかげで磐梯山こそ見えないが、桧原湖に浮かぶ(実際は浮かんでいない)「流れ山」の数々を観察できる。湖面を渡る初夏の風も、実にすがすがしい。



探勝路には、一定間隔でこのような「指導標」が設けられていた。一本道なので迷いようもないのだが、自分のおよその現在地がわかるので、安心感が湧く。



探勝路の道端には、たくさんの野草が繁茂している。今度は薄紫色の花の群落を見つけた。



これは **ベニバナイチヤクソウ** *Pyrola asarifolia* というツツジ科の常緑多年草である。「紅花一葉草」の意味で、草全体を乾燥させて薬草として使うことからついた名称だ。利尿効果(高血圧に有効)や、脚気(かっけ)の改善に効くらしい。ハイカーも稀な道なので、業者などが根こそぎ持ち去りはしないかと、ちょっと心配になってしまった。